

・ 自分で企画をする時間帯について、前回は今回も合宿では最初の枠ということもあって、ウォーミングアップになるような楽しさと、目標や10プロを考えられるような取り組みを入れることを意識してプログラムを考えました。

年間目標を考えるのに、去年はマンダラチャートを使っていましたが、今年はマインドマップが目に入るが多かったです。

しかし、マインドマップはマンダラチャートに比べて講座を目にすることが多かったけれど、ビジュアル重視の世界のように思えて、あまりやりたいという気持ちが盛り上がってこなかったのです。

マインドマップの本を複数冊借りて見てみた中で、一番スツと入ってきたのは子供向けの本でした。

元々発祥者が授業の内容が頭に入らないことを解決したくて産み出したマインドマップなのだから、子供のノートの取り方に対しての教え方が一番しっくりくると思いました。

マインドマップを書く時に楽しみながら出来たらと思って、多色筆ペンを持参したのですが、思っていたよりも反響があって、楽しく取り組めたようで良かったです。

最初に同じテーマでマインドマップを書いてみて、どんな違いがあるのか見てみたいと思ったのですが、手書きだからこそ、4人の個性がにじみ出たマインドマップとなりました。

セントラルイメージ(中央のテーマ)を「10年プロジェクト」としたのですが、陽子さんは唯一メンバー外をイラストで表現していました。また、「個性」という、今後取り組みたいこと(未来)に焦点を当てているのが陽子さんらしいと思いました。

他のメンバーについても、10プロの中の様々な活動に焦点を当てたブランチ(枝)や、ある程度文章の様な意味合いを持たせたブランチという、これまでのオンラインとはまた違う表現の違いを目にすることが出来ました。

オンラインでは手書きはほとんど出てこないのも、やはりオンラインの情報共有では知らず知らずに少し偏った公開になっているのだとも思いました。

これからそれぞれの年間目標についても、マインドマップという手段を通して発想を膨らませる側に使い、それぞれ足りない部分や咲かせる花や実についてもお互いに話し合えたらいいなと思いました。

カードゲームについては、意外性を取り込んだことで意図的な会話では出せない話題を話し合うことが出来たと思えました。

音声収録などの取り組みをしていたり、自己開示の練習をしてきた、今のチームメンバーだからこそ、戸惑いもなく話が出てきたのではと思います。

私の回は世の中のツールを取り込んでみる取り組みを意識的に入れています。

私自身もどちらかというと目の前のことに必死になりがちな部分があるので、世の中のトレンドに触れることを、合宿という非日常を通じて取り入れる貴重な機会として活かしたいと思いました。

(A.S 40代女性 北海道)